

tall pocket park

～高さ150メートルのポケットパーク～

都心部に並ぶ高層タワーマンション。何百世帯、何千人が優れた眺望と快適な生活を求めて高密度に集まり、一つの都市を形成している。

ここはその中に差し込まれた、広さ約7m×4m、高さ150mのポケットパークである。

目のくらむような高さから光が差し込み、乱反射した光によってガラスブロックは白く光る。その先には小さく切り取られた空がゆっくりと漂う。

ガラスブロックの向こうには、内部を歩き来する人の影がちらほらと見えて、日が落ちると、マンションの内部の明かりがガラスブロックを通して光り、ポケットパークをやさしく照らす。

ポケットパークに置かれたソファに寝ころんで空を見上げる。ピアノは弾けないけど、鍵盤をたたく。ピアノの音とともに意識は空へと飛い込まれていく。

多くの高層タワー型マンションでは、4方向全てのファサードからの眺望を確保するため、センターコア方式が採用されている。タワーの中心部はエレベーターや非常階段、各設備用スペース、立体式駐車場が収められている他、真中を中空として冷暖房機器の排気口としている事例も多く見られる。

移動空間は全て中廊下となり、全ての照度を人工照明に頼っているため暗い空間になりがちである。

タワーの中心の一部を吹き抜けとし、ガラスブロックで覆うことで、排気口としての役割を果たしながら、ガラスブロックのもつ美しさと透光性、遮音性によって、気持ちのいい内部空間をつくる。

